



国営沖縄記念公園首里城地区 計画・設計の記録

【平成の復元】

沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所

平成 7 年 3 月

はじめに

首里城公園は、国指定の史跡である首里城跡とその周辺を国や沖縄県が共同で都市公園として復元整備したものである。平成4年11月3日に、その一部が開園して以来、早くも2年5ヶ月が経過した。この間多くの方々がこの地を訪れており、復元されたこの歴史的空间の中で、琉球王朝時代を感じ、沖縄固有の歴史文化のすばらしさを発見していただければ幸いである。

首里城公園は、沖縄の歴史文化の拠点として、あるいは歴史的風土を活かしたまちづくりの拠点として期待されており、これに応えるとともに、可能な限り忠実に復元整備することが課題となっていた。

多くの学識経験者や様々な分野の専門家、あるいは行政関係者の方々が、乏しい資料の中、更に新たな資料の発掘や収集及び遺跡発掘調査等を精力的に行い、これらを総合的に検討しながら計画を練り設計を行ってきた。その中で、戦前の首里城を知る古の証言をはじめ、当時の貴重な写真の提供など沖縄県民から多大な協力や本事業に対する熱烈な応援があった。これが事業の具体的な進捗に貢献するだけでなく、事業関係者への精神的支援ともなった。

このような広範囲な人々の支援協力により復元事業としては極めて精度の高いものとなり、まちづくりや地域経済にも多大な影響を与える事業として進めることができた。本事業は、現在もまだ継続中であり、未整備区域を中心に資料収集や遺跡の発掘等を行いながら、復元整備を進めている。

本書は、首里城公園が平成4年11月3日に部分開園した時点を一つの区切りとして、平成5年度の「建設の記録」に引き続き、計画から設計段階までの記録をとりまとめたものである。

今後新たに首里城公園の事業に参加される方がこれまでの復元事業の経過を学ぶ上で、「建設の記録」と併せて本書を活用していただきたい。また、歴史文化への関心が高まりつつある昨今、同様の復元事業が全国で展開されており、少しでも本書がそれらの事業の参考になることを期待するものである。

平成7年3月

国営沖縄記念公園事務所長

西川 嘉輝



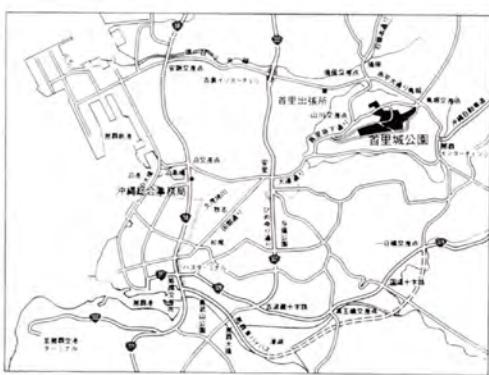
★表示の所は供用開始済み (平成7年3月末現在)

全国の国営公園

◎国営公園の種類

- (I)一つの都府県を越えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園または緑地 (I号国営公園という)。
- (O)国家的な記念事業として、または我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るため閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園または緑地 (O号国営公園という)。

■首里城公園の概要



国営沖縄記念公園(O)★

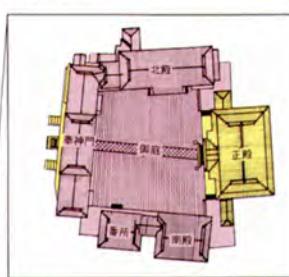
位置図

■事業区分		表示	事業名	事業区分	主な施設	担当部局
表示	事業					
首都 里 城 計 画 事 業	道 事 業	県 道 道 号 号	正殿 以外 の 有 料 区 域	城 郭 の 外 側	城 郭 の 内 側	県 道 道 号 号
那 霸 市 建 設 部	沖 繩 県 土 木 建 築 部	沖 繩 県 土 木 建 築 部	奉 南 殿 ・ 神 門 ・ 御 庭 ・ 北 殿 駐 車 場 ・ 首 里 城 公 園 レ ス ト セ ン タ ー	城 郭	正殿 瑞 泉 門 漏 刻 門	正殿 瑞 泉 門 漏 刻 門

表示	施 行
■	沖 繩 總 合 事 務 局

■施行区分(有料区域)

有料区域



■の表示部分が開園範囲。



計	城 郭 の 外 側	城 郭 の 内 側	区分		面 積	単位 ha
			事業 名	面 積		
	復 元 整 備 事 業	特定 公 園 施 設 整 備 事 業	国 營 都 市 公 園 事 業	4.7	全 体	
17.8	13.2			1.7	今 回 開 園	
3.9	2.2					

首里城公園計画図

凡例

1. 本書は、調査・設計等に関する既存報告書を収録しているが、編集の都合上、内容の一部を割愛している。
2. 計画の前提や図版、データ等は計画時点のものである。
3. 本文末尾の【※ゴシック文字】は、設計後に変更したことや、その後の経緯などを説明したものである。
4. 寸法表示はメートル法によったが、一部必要に応じて尺寸法を併記した。
5. 文中のふりがなで、カタカナ表記は沖縄方言読みを示す。

国営沖縄記念公園首里城地区 計画・設計の記録

【平成の復元】

目 次



□はじめに	3) 城内の機能	40
□首里城公園の概要	4) 植生	43
□凡例	2. 計画地の現況	46
□目次	1) 地形・地質	46
□巻頭写真	2) 植生	46
	3) 文化財	47
	3. 計画地の交通条件	48
	1) 道路網の現状	48
	2) 道路網整備の状況	48
	3) 公共交通の状況	48
	4) 地区へのアプローチの状況	49
	4. 観光	49
[第1編 公園計画編]		
第1章 計画の経緯		
1. 首里城公園の復元整備に至る経緯	27	
2. 首里城構想と首里城公園	29	
1) 基本構想	29	
2) 基本計画	29	
3. 調査設計業務の手法	30	
4. 委員会等	31	
1) 首里城公園懇談会	32	
2) 首里城正殿設計委員会	32	
3) 首里城城郭調査検討会	33	
4) 御庭ゾーン等基本設計委員会	33	
第2章 計画の前提		
1. 歴史的条件	35	
1) 首里城の変遷	35	
2) 城郭の様式と特徴	38	
第3章 基本的理念		
1. 歴史の拠点としての首里城	51	
1) 首里城の沿革	51	
2) 旧国宝指定を受けた首里城内の文化財	51	
2. 伝統・文化の拠点としての首里城	52	
3. 首里城復元整備の意義	53	
第4章 基本方針		
1. 公園計画の考え方	55	
2. 計画概念	55	

第5章 計画条件の整理

1. 歴史的風致の整理	57
1) 歴史的風致構成要素の把握	57
2) 景観分析	63
2. 土地利用の整理	66
3. 施設の整理	68

第6章 基本計画

1. 景観計画	69
2. 土地利用計画	71
3. 動線計画	73
4. 施設配置計画	75
5. 利用運営計画	76
1) 利用運営の基本方針	76
2) 展示計画	76
3) イベント計画	76
4) 映像計画	77
5) 広報計画	77
6) サービス計画	77
7) 管理計画	78
6. 造成計画	79
7. 植栽計画	81

〔第2編 復元整備計画・設計編〕

第1章 建築物

1. 正殿	83
1) 歴史的経緯と建物の特徴	84
2) 正殿復元の基本理念と基本方針	86
3) 調査設計	87
1) 構造形式	87
2) 規模	87
3) 位置、地盤高	87
4) 各部設計	88
2. 正殿両廊下	126
1) 歴史的経緯と建物の特徴	126
2) 調査設計	127
3. 瑞泉門	129
1) 歴史的経緯と建物の特徴	129
2) 調査設計	130

4. 漏刻門	133
1) 歴史的経緯と建物の特徴	133
2) 調査設計	133
5. 広福門	135
1) 歴史的経緯と建物の特徴	135
2) 調査設計	136

第2章 城郭

1. 歴史的条件の整理	141
1) 防御機能	141
2) 城の尊厳、備えを示威する機能	141
3) 建築空間、広場空間の形成機能	141
4) 祭祀機能	142
5) 風土対応及び利水機能	142
2. 石積調査	143
1) 首里城に関連の深いグスク事例調査	143
2) 首里城の旧石積残存状況調査	144
3) 戦前の首里城写真から石積判読調査	144
3. 城郭石積復元整備の基本的考え方	145
4. 石積の規模・形態の検討	145
5. 復元構造物の安全性の検討	149
1) 構造の検討と設計条件の設定	149
2) 断面の構造検討結果	150
3) 復元構造物工法の整理	150
6. 城門エリア（第1期開園区域）の石積	151
1) 石積聞き取り調査	151
2) ボーリング調査	151
3) 遺構調査の結果	153
4) 規模・形態の設定	155
5) 復元整備工法の検討	159
6) 構造設計	160

第3章 園路・広場

1. 王府時代の利用動線と園路・広場構成	163
1) 歓会門動線	163
2) 久慶門動線	164
3) 繼世門動線	165
2. 園路・広場計画の方針	166
3. 園路系統の設定	166
4. 園路・広場舗装構成の設定	167
5. 第1期開園区域の園路・広場	168

1) 瑞泉門と磴道周辺	168	第8章 特定公園施設	1. 計画の前提	209
2) 漏刻門の磴道周辺	168		1) 御庭	209
3) 広福門～下之御庭	169		2) 北殿	211
4) 木曳門・西のアザナ方面へのルート	169		3) 南殿	212
5) 北殿東側磴道	169		4) 番所	213
6) 右掖門～久慶門ルート	170		5) 奉神門	214
第4章 工作物		2. 御庭ゾーン基本計画	215	
1. サイン	171	1) 計画の前提となる基本的考え方	215	
2. その他の施設	173	2) 計画を策定するにあたっての基本方針		215
第5章 設備		3) 御庭と各建物の機能	215	
1. 電気設備	175	4) 御庭ゾーン内の動線（順路）計画	216	
2. 機械設備	181	5) 展示基本シナリオ	216	
3. 雨水排水設計	183	3. 建築基本設計	217	
第6章 城郭基盤造成		1) 設計の基本方針	217	
1. 城郭基盤造成計画のフロー	185	2) 建築基本設計	217	
2. 首里城の地形に関する検討資料	185	3) 建物の各部詳細	217	
3. 検討資料と対応する場所の整理	187	4. 設備基本設計	219	
4. 地形改变の検討	187	1) 設備設計基本方針	219	
5. 造成計画の基本方針	188	2) 設備設計	219	
6. エリア別造成計画	188	第9章 京の内		
1) 西のアザナ周辺エリア	189	1. 京の内の語義・語源	221	
2) 瑞泉門・漏刻門周辺城門エリア	189	2. 京の内の空間構成	221	
3) 京の内周辺エリア	190	〔資料編〕	227	
4) 久慶門東城郭周辺エリア	190			
5) 正殿・御庭エリア	191			
6) 書院・二階殿・料理座周辺エリア	193			
7) 北東城郭エリア	193			
8) 繼世門周辺エリア	194			
7. 全体の造成計画	195			
第7章 庭園・植栽				
1. 庭園	197			
1) 琉球庭園の特徴	197			
2) 首里城内の庭園	197			
3) 庭園計画	198			
2. 植栽	202			
1) 植栽の歴史的変遷	202			
2) 主要地点の往時の植物景観	202			
3) 植栽計画	206			



御庭を取り囲む建物群

■一部開園した首里城公園



北西上空より見た首里城公園（平成7年）



守礼門 昭和33年に復元され、平成4年に保存修理工事が行われた



歡会門 昭和49年に復元された



瑞泉門 手前右下に龍樋がある



この龍樋は1523年に中国から舶来されたものと言われている



漏刻門 右奥の建物は広福門



漏刻門から北殿、奉神門方向を見る



広福門北面 右手は漏刻門



下之御庭より奉神門正面を見る



正殿全景 木造で復元された。外観は二重屋根で内部は三階建てとなっている





正殿一階御差床正面



正殿二階御差床正面



北殿正面



左は南殿、右は番所



御庭を取り囲む建物群 正面奥は正殿、右に南殿・番所、左奥に北殿、手前は奉神門



首里城公園の中心部を遠望する。 手前は守礼門

沖縄縣琉球國首里舊城之圖

甲午初夏陽日

董此畫不列

董此畫不列



「首里旧城之図」明治二七年、仲宗根嶋山（董不烈）筆 沖縄県立博物館蔵

■ 戦前の首里城



崎山方面より首里城を見る。右手に正殿、二階殿などの建物が見える。(大正末期) 沖縄県立芸術大学蔵



世持橋から龍潭ごしに首里城を遠望する。(明治末期)『望郷沖縄』



守礼門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



歓会門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



瑞泉門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



漏刻門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



修理を終えた正殿（昭和8年以降）文化庁文化財保護部建造物課蔵



正殿正面唐破風（昭和10年頃）『琉球建築』



北殿（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



南殿・番所（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵